

# 第1章 取り組みを徹底検証

## 市民の声をまちづくりに

「地域審議会」を設置し、地域づくりなどについて審議

### 取り組みの内容

合併により、周辺地域の声が届きにくくなるのではないかと、いった懸念に対応し、地域の住民の意見を新市のまちづくりに反映させるため、各地域の各界各層から選出された委員で構成する「地域審議会」を旧8町村に設置しました。

### 評価

設置当初は、地域審議会の運営などについて試行錯誤することもありましたが、「会長会」を開催するなど、現在は、各審議会が共通認識をもち、円滑に運営されています。

この審議会では、地域のさまざまな課題や地域づくりについて審議され、市長への意見書も鹿野・青谷の両審議会から提出

されるなど、活発な運営が行われています。

### 今後の課題・取り組み

今後も、各地域の意見を、本市のまちづくりに反映させていただきます。

審議会委員については、任期は2年と定められているものの、自治組織役員などの場合、単年度で改選となるため、委員の短期間での交代が発生していること、また、女性委員が20%、20、30歳代の若年層の委員が4・4%と、委員全体に占める割合が少ないというような課題も抱えており、今後の委員構成のあり方について、各審議会の意見を踏まえながら、検討を進めたいと考えています。

市民と市役所の距離を縮めるための広聴活動を重視

### 取り組みの内容

役場が遠くなり住民の声が届かなくなるのではといった不安に対応するため、市長をはじめとする市幹部職員が出席し意見交換する「地域づくり懇談会」、

市長へ直接意見を伝えることができる「市長アワー」、「市長への手紙」など、いろいろなチャンネルを設けて、市民のみならずの声を地域づくりに反映するよう努めてきました。

### 評価

新市の行政サービスが各地域にくまなく行き届くように、市民のみなさんとの対話行政に積極的に取り組み、住民のみならず

んに、市役所を身近に感じていただいていると思います。

### 今後の課題・取り組み

今後も市長が地域に

出向き、各種団体の活動やイベントなどにも積極的に参加するなど、住民のみなさんと市長が接する機会を増やしていきま。また、総合支所の責任者である支所長と各課長が、住民と意見交換をする「集落座談会」



### 行動範囲が広くなり視野が広がった

橋本 保 さん

はしもと・たもつ 46歳  
福部町湯山



観光梨園を経営していますが梨狩りのお客様は県外の方がほとんどで、今年8月下旬から約1カ月間の二十世紀梨のシーズンには、6万人以上の観光客がいらっやいました。観光面では、合併して特に変わったという感じはしません。

私は、地元の和太鼓グループ「ふくべ砂神太鼓実行委員会」の会長をしています。素人ばかりの集団で結成してから6年目になりました。メンバーは中学生から55歳までの15人。太鼓は、エネルギーを発散できるし、打っているときは無心になれるので、楽しくてたまりません。合併してからは、佐治町や河原町まで演奏に出かけるようになりましたし、合併1周年記念の「とっとりきらめき祭」にも出演します。現在、メンバーを募集中。元気な人、大歓迎です。自分自身、行動する範囲が広がり、知人や友だちが増え、いろいろな意味で視野が広がりました。これが、合併効果ですかね。